

# 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。  
皆様には穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。地域の皆様に支えられ、釧路労災病院も今年も無事新年を迎えることができました。



長きにわたり猛威を振るった新型コロナウイルス感染症もひと段落ついたように思われましたが、完全になくなることはなく、相変わらずくすぶっています。そのため、労災病院においても新型コロナウイルス感染対策を緩和できず、あわせてインフルエンザや様々なウイルス感染対策をしっかりと継続する状況にあります。  
皆様には様々なご不便をおかけしていると存じますが、ご協力のほどよろしく願いいたします。

私は2024年3月に長く勤務した北海道大学医学部（泌尿器科）を退職し、釧路労災病院に院長として赴任いたしました。来釧から約8か月がたち、春、夏、秋を経験してまいりましたが、いよいよ釧路の冬を経験することになります。  
札幌では冬といえば豪雪で、除雪が日課でしたが、釧路ではほとんど雪が降らないとのこと、その面ではいいなと思っています。  
ただいろいろな方に聞くと、とにかく寒いとのこと、十分な防寒対策をしてこの冬を乗り越え、美しい春の釧路（2回目になります）を迎えたいと思っています。

さて、釧路労災病院ですが、新型コロナウイルス感染症、働き方改革の導入、医師を含めた医療者の高齢化、地域医療を担う医療者の減少、病院経営の悪化など様々な問題を抱えていますが、釧路労災病院の職員全員が一丸となって、これらの問題に向かっています。どれも大変な問題だと思いますが、その中でも地域医療を担う医療者（医師、看護師、薬剤師、臨床工学士、理学療法士、等）の不足が深刻な問題となっています。

実際、看護師数が不足し、病床数を減少させざるを得ない病院も見られます。この点は、当院だけの努力では解決するものでなく、釧路地域を中心とした医療圏全体で対

策を立てるものだと思います。ただ、なかなか前に進まず、いつまでも手をこまねいているわけにはいきません。

そのため、以前から実施していた「高校生のための医療体験セミナー」を、2023年以後再開（一時期コロナ禍で中断していました）し、釧根地区で生まれ育った若い人たちへの医療に対する啓発活動を行っています。

セミナーでは、当院の全医療職種の方が協力して企画されています。このような企画を通して少しでも釧根地区で働く医療職の方が増えることを期待する多くの職員の気持ちが発露したものと思いますし、地道な努力が明日につながるものと期待しています。

最後になりましたが、令和7年（2025年）はいわゆる「医療の2025年問題」がスタートし、日本の医療体制に大きな変革が起こるとされています。

実際、2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護の需要が増加します。内閣府「令和4年版高齢社会白書」によると、2025年の高齢者人口は、65～74歳の前期高齢者が1,497万人、75歳以上の後期高齢者が2,180万人になるとされています。実に、国民の約3人に1人が65歳以上になると推測されています。

そのような高齢者の急激な増加により医療の需要の高まるとされます。これにより、釧根地区においても医療にかかわるさまざまな問題が発生するかもしれませんが、職員一同、一丸となり地域医療を支え続ける所存です。本年もさらなるご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

院長 篠原 信雄